

# 第2回 和東町第5次総合計画審議会

## 議事要旨

日時:令和3年1月18日(月)午後2時30分～午後5:00

場所:和東町社会福祉センター大ホール

出席者(18名)

出席委員:藤井委員、濟藤委員、荒木委員、村田委員、中川委員、井上委員(代理:坊氏)、姫野委員、岡田(周)委員、西田委員、奥委員、北委員、吉田委員、村城委員、岡田(文)委員、湊委員、布川委員、西村委員、澤委員

欠席委員:大西(隆)委員、大西(研)委員

事務局:岡田課長、藤原担当課長、中尾課長補佐、(株)ぎょうせい3名

### 配布資料

- 資料-1 和東町第5次総合計画審議会委員名簿
- 資料-2 第1回和東町第5次総合計画審議会議事要旨(令和2年11月12日開催)
- 資料-3 地域づくりの傾向と対策
- 資料-4 和東町総合計画策定に関する基礎調査(地域特性と時代の潮流への対応課題)
- 資料-5 和東町まちづくりアンケート調査結果(概要版)
- 資料-6 和東町第5次総合計画に向けた住民ワークショップ結果概要
- 資料-7 和東町第5次総合計画策定に係る団体ヒアリングの概括
- 資料-7-2 団体ヒアリングシート
- 資料-8 和東町第4次総合計画(後期基本計画)施策評価及び成果指標に関する総括
- 資料-9 和東町第5次総合計画の策定に向けた課題の総括までの流れ

### 次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事

#### (1)報告事項

・地域づくりの傾向と対策について【資料3】

資料3について、会長より説明。

10年間の計画期間は長いことから、できれば年に1回はこの審議会でチェックできるような仕組みも検討したい。PDCAがきちんとできるような。

姫野委員：第4次総合計画の施策評価をしっかりと説明し、課題を明らかにした上で協議事項に入った方がよいのではないか。

事務局：本日の資料8が施策評価の資料となっており、後ほど説明させていただく。ただし、PDCAで考えたときに、施策目標の具体的な評価が難しいところがあった。数値目標があれば定量的に評価できたが、定性的な施策評価については、各課の自己評価になっているところをご承知願いたい。

会長：このあと、評価と今後のチェック体制の意見についてもいただければと思う。

#### ・資料4～資料8について

資料4～資料8について事務局より説明

会長：ご意見あるか。

副会長：各分野の課題の優先順位の判断がつかない。人口が減ったから、それに紐づけられた課題がある。行政としてやらなければならないことが大部分であり、評価すれば平均点以上は出ると思う。審議会での協議事項はどこで反映されるのか。世間の動きに合わせていかなければならない。一つの施策を評価したときに、関連した他のものの評価はどうかを分析しなければならない。

会長：実質的な議論をしたいというご意見であると思うが、5年間でやったことについて、どれだけやっているかが、わからない部分はある。点数が低かったものの課題は何であったのか。それを計画に反映していくということだと思う。

10年間の計画策定を作るのに数回の審議会での議論では少ないかもしれない。細かな視点も必要だが、こういう考え方をしてほしいというのも大事。各分野の団体の方のご意見を伺いたい。

吉田委員：個々の数字について、行政評価の点数が高いからOKでなく、10年間人口減の傾向は変わっていない。その課題が重要ではないかと思う。

会長：事務局として、そういう課題があるのか。プラスα、アウトカムがあったのか。どのような効果があったのかを検証することが大事である。

岡田(文)委員：第5次総合計画を策定するために、審議会を開催しているわけだが、40年前から第1次～第4次まで総合計画を進めてきている。その中で人口減少に歯止めがかからない。普通のことをしても人口増加には繋がらないと考える。本当の魅力を打ち出さなければならない。魅力の一つとして、親は子どもの教育には敏感であるので、インターナショナルな教育が広まれば魅力だと思う。

あと家を建てると固定資産税を何年間か無料化となるなどを考えていかないと、トンネルできて何も変わらないのではないかと危惧する。

会 長：各部署の自己評価が高くても、果たして状況が動いたのか。こういったところを、どのようなスタンスで対応するかが大切になってくる。

事務局：第1次から第4次をみると、昭和50年台の話になるが、第1次では人口増加傾向、第2次でも増加傾向で、水道施設の充実、学研都市が周辺にできて和東町から通える未来像を描いていた。第3次では人口減少が始まり、この時に茶源郷のキャッチフレーズを作った。だが、子育て世代が木津川市や精華町に流出した。第4次になると、これまでのキーワードが「人口」であったが、できるだけ「交流人口」を増やすことに焦点を充て、茶畑のPRなどの観光施策を打ち出した。さらに和東町では子育て施策を充実させていこうということで子育て充実の施策を打ち出したが、人口減少に歯止めがかからない状況は続いている。これから新たな過疎対策事業を展開していく中で、子育て支援や道路などの整備も行っていきたい。

村城委員：第4次策定時に行った町民アンケートの結果に「買い物や通勤が不便」の割合が高い結果となっていたが、今回のアンケートでも同じ傾向であった。和東町の課題は多々あるが、しつかり的を絞って、人口減少を止める、抑止するにはどうすれば良いかを話し合えばいい。

会 長：人口問題に派生して、産業や福祉、教育も関係してくる。いろんな分野で和東町をPRしてきているが、施策の効果が十分見えてこない。ポイントとして、UJIターン、産業振興など雇用の話もある。色分けをして施策の評価をしていく必要がある。

村城委員：評価は一年のスパンでは見えないと思う。

会 長：そのような考えがある一方で、人口減少のスピードは速く、5年に1回の対策では遅い。毎年定量評価をすることが大事である。他の都市では目標が達成できないと予算を出さないなどを行っているところもある。

副 会 長：和東町と似たような自治体がやっている良いところを取り入れることをした方がよい。それが資料の中に取り込まれていない。アンケートで子育て世代の意欲が少ない。トンネルができればマイナス面もあるが、ベットタウンになるなど便利がよくなることを捉えることが大事。人口が一人が増えれば、その関係人口が増えることを考えることが大事である。

会 長：報告の中でいろんな団体の意識がバラバラというのがあったが、総合力という意味では、地域の主体でそれぞれ行っていくことが良いと考える。

布川委員：昨年4月から和東町に来ているが、団体はたくさんあって、皆ポテンシャルはある。ただし、それぞれがやっている内容がわかりにくい、活動が被っている、

横のつながりが薄いなど、それぞれの活動内容をもっと共有していければよいのではないか。

会 長 : NPO などの団体が一堂に介するところはあるのか。

事 務 局 : 団体ヒアリングの中でも名前が出ていたが、地域力推進協議会という団体があるが、そこに入っていない団体との共有ができればよいのではという意見も出ていた。仕組みを作るのであれば、一同に介する場が必要だと思う。

会 長 : 日常的にワークショップなどをやって、問題解決できれば良い。

副 会 長 : リーダーをだれがするのか。リーダーになる人材がない。

会 長 : リーダーを作る人材育成が大事。和東町で地域を引っ張る人が必要。計画とは別だが、行政施策でできない、気づかないことができるような緩やかな集まりなどが必要。

西田委員 : 今年度は、コロナの影響で行事が中止になっており、活動の場がない。観光に力を入れてもらえるとよい。和東に他にないものを見出してもらえればよいと思う。

会 長 : 町長も言っているが、茶業を守る。景観条例もこういう趣旨のもとでできている。インバウンドが来て景観みただけでは、お金は落ちない。これをうまくできればよいがなかなか上手くいかない。ポイントとして2つあり、1つ目として景観条例に指定された場合は、農道がくずれたら補修して維持する。2つ目として、外から来た人が踏み込まないようにする。これらが茶業を守ることになる。景観条例を各区に出すことで、上手くいけば文化的景観、世界遺産までいくのではないか。玉露は世界遺産の魅力がある。茶の風景は歴史的な積み上げがある。

北 委員 : 資料8の施策評価について、一昨年に耳にしたが、星野リゾートが施設を作る話があった。リゾート地になれば、人口が増加することが望まれると考えていた。この施策評価の資料の中には書かれていないがどのような状況か。

事 務 局 : 星野リゾートについて、2年前の1月に京都府・和東町・星野リゾートで、和東町にホテルを建てるのではなくて、共同でまちづくりを進めていきたいと思いますという協定を締結した。事業者と一体となった施策を打ち立てていくという内容で第5次計画に盛り込んでいきたい。

中川委員 : アンケート概要の最後の課題に書いてあるものが大事だと考える。3つ目の課題について、行政によって協働体制を構築していただくことが重要である。

町内の団体との協働体制が構築できると良い。

第1次から第4次までの課題が同じようになっていないか懸念している。

会 長 : 地域力推進協議会の運営、仕組みはどのようなものか。

事 務 局 : 具体的な活動内容については承知していないため、確認の上、今後の会議

で報告したい。

湊 委員：人口流出と移住促進がポイント。教育は必ず力を入れていく課題だと思う。海士町の例のような人間力を育てるや、学力の面でもよいので、第5次の中心になってもよい。6年前に和東町に移住してきて問題として考えるのは、外から移住者を呼び込んだときにも受け皿がない。移住者にどのように移住を進めたかと聞くと人脈があったからと話しに聞くが、行政が良くしてくれたから、移住できたとは聞かない。制度としてある空き家バンクは町民には魅力がない。実用性がない。息子が帰ってくるから、仏壇があるからと家主は様々な理由を並べるが、結局のところ、地域の生活に合わない人が来たら困るといのが根底にある。空き家は活用したいけど、来る人がどのような人が来るのか不安。住民が安心して貸せる、安心して移住できる制度が必要。移住の相談受けたのは数十件あるが、空き家バンクがうまく活用できなかった。持ち家は資産にも負の遺産にもなる。第4次は観光で知名度は上がったと思うので、第5次では移住促進の施策を打ち立てていただきたい。

会 長：ある集落の人にどのような人に来てほしいかのアンケートをしたことがある。どういう人に来て欲しいかという意見を集約し、掲示をした。農業のためにきてほしい、半農半xができる方という希望に合った人材を呼ぶ込むことができる。

副 会 長：諸経費がかからないことも大事。限界集落になってしまうと農家をしてくれる人であれば、誰でもよいとなる。

会 長：教育の話があったが、それは和東町でもできることか。

村田委員：中学生のアンケート結果の 21 ページにある、「和東町に住みたい理由」に回答があるような意見にいかに力を注いでいくかが大事だと考える。

和東町は魅力があって発展するという声を外から聞くが、中に対する PR 不足を感じる。どのように働きかけていくかが大事。

施策評価点の 10 点は、施策として効果があって初めて 10 点だと思う。そのやり方は考えていかなければならない。

学校教育については、少数ならではの体験学習などの取り組みを行っている。

## (2) 協議事項

和東町第5次総合計画の策定に向けた課題の総括までの流れ【資料9】

資料9について、事務局より説明。

3つの大きな課題として、①人口減少の抑制、②誰もが住みよい定住環境づくり、③和を束ねる地域ぐるみによるまちづくり を大きな課題として第5次総合計画策定に向けた検討を進めていきたい。

会 長：説明を聞いてご意見あるか。

事 務 局：これまでの調査やご意見を反映して、今後の検討課題を事務局として提示しているが、改めて資料に目を通してさらにご意見があれば、2月中旬ぐらいまでに事務局までご意見いただければ。

岡田(文)委員：本日の各委員の意見は課題に反映されるのか。

事 務 局：あくまでたたき台であるので、これを基に本日のご意見を反映して、第5次総合計画策定の方向性を決定していきたい。

姫野委員：これを基に基本計画を立てるので、今の段階では漠然としているものであって良いと思う。

会 長：検討の方法論をいただいたと思っている。

副 会 長：具体的な移住に対しての説明ができるような体制を整えて欲しい。

岡田(文)委員：移住施策に関する和東町の予算は、どれぐらい組んでいるのか次回までに準備していただきたい。

会 長：2月中旬までにいただいたご意見は、共有できるようとりまとめをお願いしたい。

#### 4 その他

事 務 局：第3回の審議会の日程は調整の上、早い目にご連絡差し上げる。今年度中にもう一度開催する予定である。

#### 5 閉会

以上